

日 時 平成 20 年 12 月 16 日（火）午後 6 時から 8 時 00 分

会 場 宮前区役所 4 階会議室

参加者 高木部会長、河井委員、恒川委員、千葉委員、松井委員、渡辺委員、（以上、部会委員）
永野委員長、（オブザーバー）
田邊企画課長、中山同主査、成沢職員（以上、事務局）
岩下研究員（コンサルタント）

開会

事務連絡（田邊企画課長）

- ・会議公開について説明し、委員が了承した。
- ・欠席委員の連絡について（川島委員、鈴木委員、川西委員）
- ・資料確認を行った。

1. 議事（進行：高木部会長）

（1）今後の審議の進め方について

資料に基づき、これまでの議論内容の確認を行い、続けて意見交換した。

資源の整理・大分類について

高木部会長 資源や宝物の分類などをこれまで検討してきましたが、まだ資源をまとめただけともいえます。これをこれからどのように活用し、足りない部分を補っていくのか、ご意見をいただきたいと思います。

恒川委員 やはり子どもたちの参加、地域の参加、区民が全員参加するような形のアプローチとこうした資料の整理を並行して両面で進めていく必要があると思います。

高木部会長 12月7日に4校ほどが集まって野川地区で野川カルタに基づいたウォーキングが開催されました。今年度末の区民会議フォーラムでは、実践をしている団体を招こうということで、野川カルタも候補にあがっています。

渡辺委員 限られた人数では限界もあるので、やはり学校や自治会などに広くアプローチして進めていく必要があります。伝承文化なども地域で細かく見ていけば、まだまだたくさんの資源があると思います。

高木部会長 資料1の資源分類表はあくまで叩き台ということで、掲載されている資源もまだほんの一部です。表を地域毎に分類してつくっていくやり方もあると思います。実際に地域に持っていくときはその方が良いでしょう。

千葉委員 宮前ぼーたろうで紹介するとしたら、一度に全てまとめるのは難しいとは思いますが、例えば「生田緑地はここにありますが」など地図付きの形で、分野毎に資源がどこにあるのか一目でわかるような紹介の仕方が良いと思います。

コンサルタント 資源分類の方針がある程度固まったら、地域毎にリストの充実を進めていきたいということは以前から出ていましたが、どんな団体にどのような形で投げかけていくのが重要です。ただこのリストを持って行って、追加してくれといっても難しいのではないかと。子どもを参加させたいという話もありますし、やはり何か楽しむしかけが必要だと思います。カルタも資源をただ見つける

だけではなく、絵を描いたり、文章を考えたところが楽しみの部分だと思います。

高木部会長 なぜ宝さがしなのかという意義、そして目のつけどころやポイント、こんな物の見方をすると面白いよ、楽しいよというところまで伝えて、提案できないと、なかなか進まないでしょう。

永野委員長 区民会議としての最終到達目標は、資料にあるように区民みんなで宝探しをして、宝物を顔に押し上げていくプロセスを提案するという、それから宝物や顔に押し上げた資源を内外に広くPRしていくことです。投げかけ方としては、やはり資源探しから区民に参加してもらいたい。

区内の様々な団体のイベントの中には、地域の資源を利用しながらやっているものが結構あります。例えば青少年指導員会では、4つの地区からウォーキングで地域の宝と自分との関わりを見つけながら、一つの公園に集まってくるような「ディスカバーウォークみやまえ」を行っています。こうしたイベントに投げかけて、更に資源の押し上げを意識したプログラムを展開もできると思います。

松井委員 地域にはいろいろな団体があります。どこをどうやって活用していくか、またその手順についてはよく考える必要があります。また、地域教育会議がこうした活動に参加してくれると非常に良いと思います。先日、宮前区の中学校校長会の下村先生にグリーンフォーラムの話などをしましたら、こうした活動に非常にのり気で、中学校でも地域に目を向けて、地域の人達と一緒に、地域の資源を大事にしていく場ができたなら、非常に良いですねと言っていました。中学校が動いてくれたら非常に良いと思います。資源の分類表はあくまで参考資料ということで、こういうものを地域に見せて、自分の地域で資源をあげてもらおうということが大切です。また見つけるだけでなく、それにどうやって関わっていくか、またそれを地域全体に広げるにはどうしたらいいのか、難しいことだと思いますが、順番を追ってやっていけたら良いなと思います。

河井委員 今、リストに挙げられている資源を見ますと、“物”が多いようですが、資源には“人”もあると思います。宮前区には様々な活動がありますし、先日初の女性プロ野球選手になった女の子(吉田えりさん)も北高(県立川崎北高校、宮前区有馬)にいます。その他にも全国レベルの部活動があります。そうした資源も探していけると良いと思います。

高木部会長 区民に投げかけて、資源探しのところからやっていく前に、このメンバーでそれぞれ持ち帰って資源をもう少しリストアップし、磨きをかけることもできると思います。

永野委員長 やはりまだ偏っている部分があり、補充ができると思います。委員だけでも持ち寄れば、結構な数の資源を加えることができると思います。また、2月に開催される「まちづくりひろば ラブみやまえ(以下「まちづくりひろば」)では、ガリバーマップという試みで地域の資源を取り上げるそうです。その際にこの部会の主旨も伝えて、資源を吸い上げることもできると思います。

高木部会長 区民に対する「区民会議で宮前区の宝物や資源を募集しています」という呼びかけは早いうちからできると良いです。募集する声を広く伝えていかないと、個人個人の活動になってしまっは、あまり意味がないと思います。

恒川委員 誰にどのように投げかけるのか。データはあくまで参考事例であり、これにあまり縛られないようにしたいと思います。アンケート調査のような形もありえるかもしれません。

永野委員長 新しい区民に呼びかける前に、まず、今すでに地域の資源に関わる活動をしている区民や団体、イベントに投げかける。その対象となりうる既存の団体やイベントがいくつかあると思います。「まちづくりひろば」もそのひとつです。イベントの参加者に自分たちの地域の宝物を書いて提出してもらうような書式をつくって配る方法も可能だと思います。

高木部会長 2月の「まちづくりひろば」などでの呼びかけはぜひしたいです。

河井委員 大勢集まる場をぜひ活かしたいですね。

高木部会長 例えば A4 版のチラシのような資料を 1 枚つくって、呼びかける。そこに「探してもらいたい」というようなメッセージを載せてはどうでしょうか。

河井委員 地域の資源を探ることが楽しみになるようなしなやかなところでは、呼びかけもほしいところでは。

高木部会長 ゲーム的な要素が何かあると良いなと思います。そうでないと、今の人はなかなかのってこないでしょう。アンケートにご協力をというだけでは紙の無駄になってしまう恐れがあります。3 月の区民会議フォーラムの場も活かしたいですし、ホームページでも「募集を始めます」というような情報発信ができると思います。

恒川委員 やはり楽しくなくては、参加者は増えないでしょう。

松井委員 早いうちに、宝探しを呼びかける文書は作成して、機会があるごとにそれを使えるようにしておくが良いと思います。早めに呼びかけ、資源がある程度集まったところで、その集約や仕上げは丁寧に進めていきたいです。

高木部会長 2 月、3 月のイベントで呼びかけるのならば、すぐ動き出さないとだめですね。

松井委員 地域の資源は、地域の合意が全て得られるようなものばかりではなく、小学生や中学生、大人など、その視点によっても挙がってくるものが違うと思います。オーバーラップする部分もあれば、違う部分もある。それを見ながらどうするかということは地域毎に話し合っていてもらえると良いと思います。

永野委員長 資源集めについては、とにかく早く動き出す。その整理や資源を押し上げていく作業については、その状況も見ながら進めていく。楽しめるしくみとしては、資源を挙げてもらうたびにスタンプを捺してあげて、スタンプラリーのようにする方法もあると思います。

松井委員 さくらまつりのような、広域から人が集まってくるイベントももちろん活かしたいのですが、投げかけの対象の単位としては、中学校区くらいが良いと思います。

高木部会長 フォーラムやおまつりのようなイベントの場での投げかけは広域な投げかけになりますね。それ以外に地域を捉えての投げかけとの二本立てが必要だと思います。いずれにしても呼びかけの紙が早く必要です。「まちづくりひろば」は 2 月 21 日ですから、次回の区民会議の全体会が 2 月 12 日にむけて作成を進め、サンプルを出して、意見をいただくような形にしていけると良いと思います。

事務局 パッと見てわかるものである必要があります。そんなに複雑なものである必要はありません。

恒川委員 区民会議をもっと知ってもらう意味でも、早くできると良いです。

高木部会長 いろんな場に出て行って、配れるようなものにしたい。

永野委員長 「まちづくりひろば」で呼びかけるのであれば、事前の実行委員会の場合から配布できると良いですね。その他、地域教育会議などにも配りたい。統一的な書式ができると良いと思います。

恒川委員 中学校や小学校、地域教育会議、こども会や老人会、いろいろな団体に呼びかけたいです。

高木部会長 来年度の第 1 回の区民会議はいつ頃が想定されているのでしょうか。

事務局 5 月頃です。

高木部会長 募集から集約までをどのようなスケジュールで進めるかも重要です。募集期間はある程度区切る必要があるかもしれません。

永野委員長 様々なイベントや団体に呼びかけるのであれば、決まった書式ばかりではなく、ある程度その相手に合わせた内容も必要だと思います。

高木部会長 部会名称の「宮前区の宝さがし ~ときめき再発見~」は共通の頭として入れていきたいです。

恒川委員 まずどこへ投げかけるのかということを確認した上で、投げかけかたを考えていく

必要があります。投げかけられた方がどうしたらいいのかわからないようなものでは困ります。

高木部会長 対象となりうる団体はものすごくたくさんあります。

永野委員長 ディスカバークウォークみやまえは、子ども会、青少年指導員協議会が主催しており、歩きながら、自然を発見しようというイベントです。最終的には4地区から鷺沼公園に集まって、そこでネイチャーゲームなども行います。こうしたイベントのプログラムの中に盛り込んでもらう形ができると良いと思います。

河井委員 全部の子ども会に呼びかけるとするのは大変ですし、無理だと思います。イベントの場を活用できれば一番良いですね。中学校も8校ありますから、ターゲットを絞ってアプローチしていけると良いと思います。

永野委員長 まずはみんなから集めようというより、資料1を膨らませるイメージで進めれば良いと思います。

松井委員 まずやはり資料1を地域毎に再整理できると良いです。

河井委員 学年によっては、宝物をあげるのは難しく、あげられている中からどれが宝物と思うか、マルをつけるくらいの形式が良いかもしれません。例えば宮崎台小学校に呼びかけるのであれば、宮崎台地区の資源を抜き出したものを投げかけられると良いと思います。

事務局 今あるリストを地域毎に抜き出すのは、それほど大変な作業ではないと思います。また、余談ですが、今年度の宮前区の事業提案制度である映像コンクールのテーマが「中学生が地域を知る」となっていて、昨年度より多い10作品が出展される予定となっています。2月28日が上映会の予定となっているのですが、この場でもこういったものがでてくるのか楽しみです。

渡辺委員 宝物は思い出とも深く関わってくると思います。自分が小さい頃を思い返しましても、地域のイベントや盆踊りに思い出があります。現在までも引き継がれているイベントも地域毎にあります。

松井委員 地域によっては、盆踊りの踊り手が高齢者ばかりで、このままでは廃れてしまうということで、母親たちが「盆踊りを潰さない会」をつくって活動しているところもあります。

河井委員 小学生くらいの子どもにとっては自分に身近なものが宝物です。地域の小さいお祭でも、例えば自分が櫓に上がって太鼓を叩くことができるならば、それが一番の宝という思いがあると思います。いろいろな人が資源をあげてくれるような仕組みにしたいです。

永野委員長 公園部会でも、公園で活動している小さな地域の団体と一緒に何かやったり、写真コンクールのような企画や落ち葉で焼き芋のようなイベントをやったりというような意見が出ています。

河井委員 役所の建物内にも地域の活動がアピールできる場もあったと思います。

事務局 保健所の掲示板は全面ではないですが、そうした利用ができるようになっています。

河井委員 宮前区は自主保育などの活動も本当に盛んです。私も以前は高津区から宮前区の自主保育に通っていました。

事務局 正確な数値などはすぐ出てきませんが、確かに宮前区では自主保育は非常に盛んです。

高木部会長 かんがるーは、独自の情報紙なども定期的に発行しています。

永野委員長 そうした団体にも声をかけて、協力してもらえると良いですね。活動や人の情報について、もっと充実させていきたいです。

事務局 区民から広く資源や宝物の情報を集める作業と、その整理などの作業とを並行的に進めていくということですね。資源の整理ばかりに気をとられすぎると、正解や終わりというものがないので、きりがなくなる恐れもあります。

高木部会長 第一段階は区民会議委員の関係団体などを中心に呼びかけを進められれば良いと思いま

す。その動きを来年度の春先から始めていく。その中で、並行的に会議で集まってきた資源をどうやって活かしていくのか、どうPRしていくのかという検討も進めていきたいと思います。

永野委員長 資源の中から宝物を選ぶことが目的ではなく、皆がその資源を自分たちのものだと思いつながら、これこそが宮前区の顔だとなってくれば良いと思います。

永野委員長 皆で共有できる宝物が見えてきたら、それを活かしていく、内外へ上手に発信していく方法も考えたいです。

高木部会長 おそらくそれは最終段階になると思います。まずは、地域からの情報収集を積み上げていくということだと思います。

松井委員 来年度いっぱいくらいの中で、作業工程の計画がつかれると良いです。早いうちに作成して、多くの団体に投げかけたいです。

事務局 2年間の区民会議の任期の中である程度のことをまとめ、発信していただければと思います。

松井委員 協力していただく団体に、自分たちの集めた情報や内容、やっていることがどのように活かされていくのか、見えるようにしていくことが必要です。それができれば、いろいろな形で関わってくれる団体も増えてくると思います。

コンサルタント 来年度は動きながら、呼びかけながら、検討を進める。そのために今年度のうちからいくつかのイベントへの呼びかけを始める。そのためのチラシをつくることをまず進めるということですね。

松井委員 呼びかけはできるだけ早いほうが良いですね。呼びかけに関する主旨やキーワードはこれまでの議論の中でかなり出てきていると思います。

事務局 叩き台案を次回までに、作成するというところで、何かアイデアや呼びかけ文などのアイデアがあれば、事務局にいただければと思います。なにかベースになるものがないと議論も進めにくいです。

河井委員 「区民会議とは？」ということや、区民会議でやっているということも伝わるようにしたいです。

高木部会長 地域の宝さがしを通して地域コミュニティの活性化をはかりたいということが区民会議としての主旨です。あまりくどくならないように、理解してもらえように伝えたいですね。

恒川委員 最終的に区民会議でやっていることをわかっていただければ良いのであって、まずは資源を集めている、宝をさがそうよというメッセージをまず伝えることが大事です。

永野委員長 まずは地域で活動している団体のリーダーのところへ行くということになると思います。その際に、うまく伝え、理解してもらうための投げかけ文になると思います。

事務局 個人的な経験なのですが、Yahoo!のローカル線の旅というサイトがありまして、そこに自分が気に入った写真とそれが良いと思った理由を投稿した経験があります。同じような手軽なしくみができると良いように思います。

松井委員 グリーンフォーラムでも同じようなことをやろうとしています。フォーマットを作って進められると良いですね。写真の投稿なども一度覚えると結構気軽に、簡単にできるようになります。

高木部会長 動画も簡単にできる時代です。

事務局 地域みんなと一緒にプロセスに関われるようにする。あまりオンラインに頼りすぎて、人間関係が希薄になってしまっては困ります。

コンサルタント 個人レベルの情報だけになってしまっては駄目ですね。

松井委員 顔の見える関係の中で、上手に地元のイベントを活用しながら進めていきたいです。ディスカバーウォークは楽しみです。ここでモデルケースができると良いですね。地域によっては老人会が

熱心に参加してくれるところもあるかもしれません。

事務局 様々な分野の団体から区民会議委員さんが出ていらっしゃることを活かして、いろいろな団体、それぞれの団体から情報が集められると良いです。

高木部会長 情報を集めることだけが目的なのではなく、そのプロセスが大切で、そこも楽しみたいですね。

永野委員長 公園部会でも、公園で体操をした後にすぐ帰ってしまう人も多いことが問題視され、その後でお茶会などをして、みんなで一緒に楽しむことが大切だという意見が出ました。公園のグループや散歩グループなどにも地域の資源や宝物を発見してもらおうことができると思います。そういう作業を普段の活動に組み込んでもらえるような呼びかけを行うべきだと思います。

松井委員 地域の資源のデータがある程度集まってきたら、その集まったデータを元に、また地域を歩いてもらうイベントなども企画してもらおう。それによって資源をみんなで確認や共有をしていけると良いですね。

高木部会長 呼びかけのチラシですが、2月の区民会議全体会を目標とし、2月の終わり以降にはどんどん配れば良いと思います。

事務局 情報を集める書式も色々なものが考えられます。一番簡単なのは、チラシの裏面に丸をつけたリ、資源の内容を書き込んでもらうフォームをつくり、FAXしてもらうことです。

高木部会長 あるいは E-mail や宮前ぽーたろうのサイトに投稿してもらうような仕組みができるとう良いです。

事務局 複数の方法があるのが良いかもしれません。

河井委員 メールやネットを使うのであれば、ぜひ宮前ぽーたろうを活用したいです。宮前ぽーたろうのサイトをまだ知らない区民も多いと思います。

高木部会長 サイトのアクセス数は表示されるようになっているのでしょうか。

事務局 なっていません。役所関係のホームページは全てそのようにはしていません。

高木部会長 アクセスカウンターがあると、どのくらいサイトが動いているのか、更新されているのか、ひとつの目安になります。

千葉委員 更新されていないサイトはやはりアクセスが減っていきます。

松井委員 区役所全体のトップページは、調べたいことや届出などでアクセスがある程度あるかもしれませんが、各課や各事業のページにどのくらいのアクセスがあるのでしょうか。

高木部会長 私が区役所のページを訪れるのは何かニュースがあった時などだけです。一月に1回以上は必ずアクセスしていますが、週に1回アクセスしているかどうかといわれると疑問です。

事務局 基本的には行政のホームページは、手続き等の案内ということが訪れる主目的になっていると思います。そして手続きとなりますと、それほど日常的にあるものではありません。

公園部会でも「楽しみながら」という意見がよく出ています。ただ宝さがしをしようと呼びかけるだけでも、楽しんで参加してくれる区民もいると思いますが、更に楽しみの要素を何か考えられるとう良いのではないのでしょうか。

高木部会長 懸賞などがつけられるとう良いかもしれません。できるかどうかわかりませんが。

松井委員 例えば応募のチラシに半券を入れて、商店会に協力してもらって、それを溜めると何か特典や抽選会できると良いですね。

河井委員 観光協会にも参加してもらって何かできると良いです。

渡辺委員 個人ではなく、団体で表彰したり、メリットがある形にしたいです。そうでないとなかなか

コミュニティ形成につながらないと思います。

松井委員 例えば宮前区商連での取組を進め、経済局の助成をいただくなどの方法もあります。

事務局 参加への動機付けというより、参加してもらったことに対するご褒美的な方向で考えると良いかもしれません。

河井委員 例えば子ども会は自分たちの行事で目いっぱい、それ以外に何か企画を持ち込まれても「えっ」となると思いますが、何かおまけがあればノッてくるところがあるかもしれません。

松井委員 書式はアンケート形式に近いような形で、それぞれの分類項目のところには何か書き込めるような形はどうでしょうか。

コンサルタント 楽しみの要素も重要ですが、情報提供しやすいしくみであることも重要ですね。あまり書き込むことや、情報を出す前に理解すべきことが増えてしまうと、良くないです。分類まで書くと、情報量が多くなってしまいそうです。

松井委員 ただ、何らかの形で事例や情報はうまく伝えないと、なかなか情報があがってこない気がします。

高木部会長 たくさん出した団体には区長賞など出せると良いです。

コンサルタント 表彰状を出したり、宮前区のトレジャーハンターとしての認定を出すなど、遊び心を加えながらやれると良いですね。

渡辺委員 今の資料に情報が少ない活動や人のところは特に何か呼び水的なことができると良いです。少年野球やママさんバレーのチームなどでも良いので、何か出てくればと思います。

河井委員 自分達が出した情報や自分達の団体が、どこかで紹介してもらえるなど、何かつながると良いです。

高木部会長 最終的にはやはりそこです。情報を集めるだけでなく、その情報を活かし、押し上げていく場の設定も必要です。再来年のフォーラムになるのかもしれませんが、イベント的なしかけができればと思います。すぐに何かおまけをつけるというのは難しいかもしれませんね。

永野委員長 どんな資源が集まったか、情報を寄せてくれた団体などに報告するというのも、まずしかけになると思います。以前、子どもたちを集めてまちあるきをした時に、「有馬川は将来どうあってほしいか」という質問を投げかけて、回答を集め、集計結果を地域の通信で報告したことがありました。

松井委員 商店会もそうですが、地域の不動産業界も地域のインフラを意識していますから、協力が得られるかもしれません。

高木部会長 最近は不動産業界も大変なようですが…。何か参加していただく企業に対するメリットも示していく必要があります。

松井委員 諸団体がいろいろな形で関わり、ネットワークにもつながっていくと良いですね。

河井委員 私が参加している団体なら、地域のガーデンめぐりなどもやっていますので、どこにどんなものがあるのかということは常に見ています。いくつかの資源はすぐ挙げられそうです。また、小学校の総合学習で取上げていただければ、それだけでかなりの資源があげることが可能だと思います。

高木部会長 3・4年生はよく地域を歩いていたりしているので、そこを組み込めたら良いです。

松井委員 学校は周年行事などでよく、副読本をつくるのですが、それを見ると地域のことも書いてあります。ただし、ほんの一部でまだ情報が不足していますので、こうした活動とうまくつなげられれば、学校側としても活動しやすくなると思います。

コンサルタント 副読本をちょうど作るタイミングにある学校はないのでしょうか。

高木部会長 大体が周年行事で、宮前区の小学校はできた時期は大体一緒で、一段落してしまったところ
です。副読本の作成は大体 10 年おきくらいでしょうか。自治会でも周年行事が終わった時期です。

河井委員 4 年生が地域の環境を学ぶことになっていたと思います。宮崎台小学校では 4 年生が「もっ
と素敵な宮崎台」という活動をしていました。

永野委員長 今年度は、地域の安全マップの作成を各小学校で進めており、そのための資料や材料代は
こども支援室の予算で応援しています。学校に頼むのであれば、ある程度そうした費用面などでの支
援もある上で応援依頼をしていく必要があると思います。

高木部会長 学校側にとってもプラスになるものが残らないと難しいですね。

コンサルタント 地域教育会議は年度毎に活動していますよね。

高木部会長 2 月ごろに募集のチラシが配布できれば、来年度のプログラムに取り入れていただく面
でも良いタイミングだと思います。

松井委員 本当は地域教育会議のような団体こそ、こうした活動をやるべき団体だと思います。中学校
区で、地域によっていろいろな活動をしているのですが、どうもうまくいっているところが少ないよ
うに思います。人がずっと代わっていなかったり、地域の合意を取り付けようというような動きがあ
まりないように感じます。うまくやっている地域もありますが、学校としても対応に苦慮している
ところもあるようです。本来の地域教育会議に求められている活動、地域の子どもの環境のために、学
校だけではできないことをやっていこうというところが、もっとできると良いと思います。

高木部会長 年末年始にかけて、募集チラシの原案について考えていただくことを宿題ということ
でどうでしょうか。

事務局 事務局としても簡単な叩き台となるものを提示してみたいと思います。それに対してのご意見
という形でもいただければと思います。楽しみや特典については、後から追加していく形でも良いか
もしれません。ベースとなる主旨を伝えるようなものをまずつくり、その他は投げかけの時期や対象
によってバリエーションを持たせるような形も考えられます。

高木部会長 基本のところは統一的に抑えられていれば、いくつかバージョンがあっても良いと思
います。

～コンサルタントによるこれまでの議論のふりかえり～

コンサルタント チラシは例えば、表面を宮前区の宝物を募集していますよということ、また具体的
にはこんな宝物が考えられますよというような主旨説明にし、裏面を FAX で情報を寄せてもらえ
るようなフォームにする。裏面については、配布先などによって書式や内容を変えていく
ということではどうでしょうか。

事務局 大人向けと子ども向けで書式も変わってきそうです。

コンサルタント それぞれの団体で、得意分野の資源を出してもらえばよく、団体内で
バランスを考えていただかなくても良いと思います。

高木部会長 例えばグリーンフォーラムであれば、緑や木、水などの資源をどんどん出
してもらえば良いですね。

コンサルタント 先ほど出ていた商店会や観光協会などはおまけなどの協力依頼もあ
りますが、資源を出してもらおう団体としても呼びかけていくと良いと思います。

永野委員長 ディスカバーウォークは 2 月の 22 日の予定です。

事務局 その時にチラシが配れると良いですね。2月の区民会議（全体会）で部会の検討結果としてのチラシの案を提示して固め、その後は行事で配ったり、委員さんの各出身団体に持ち帰ってもらうような流れが良いと思います。

永野委員長 1月19日がディスカバーウォークの最後の実行委員会になっていますので、その時に事前呼びかけができれば更に良いと思います。「まちづくりひろば」にも事前に働きかけをしたいです。

恒川委員 まず地域教育会議に投げかければ、うまく広がっていかないでしょうか。

高木部会長 なかなかそうなってはいないのが現状だと思います。地域毎に活動状況が違い、他の活動で余裕があまりないのが実情です。町会に投げかけた場合も同様で、地域によって温度差があります。個別に主旨を伝え、説明して、口説いていく必要があると思います。チラシをただもっていくような事務的なことではなかなか難しいと思います。

松井委員 呼びかけも人のつながりが重要ですね。

高木部会長 まずつながりのある団体から、呼びかけて事例をつくっていきたいのですが、やり始めたということは、区全体に広く伝えていかなければなりません。

事務局 次の区民会議だよりの発行は年末、その次は年度末を考えています。そのタイミングで募集のことを記事にする方法があります。区民会議だよりは回覧で全ての町内会にいきます。その他は個別にアプローチしていければ良いと思います。

高木部会長 最初にアプローチした団体とモデルケースとして進め、それをまた共有したり、発信できれば、ここはこうした方が良いなどということもできるかもしれません。

事務局 理想としては、いろいろな団体がそのプロセスに参加するようにもっていきたいですね。これまで、一つのことに様々な団体が一緒に取り組むということはありませんでしたので、それができたら、非常に画期的なことになると思います。

松井委員 社協などの福祉の団体からも、もしかしたら、他の団体とは違う視点からの資源が出てくるかもしれません。お願いしてみても良いと思います。

事務局 野川カルタは地区社協の活動です。

松井委員 公園部会の田邊さんは社協にも関わっていらっしゃいます。委員関係の団体には働きかけもしやすいと思います。

事務局 委員さんの関係団体だけでも、かなりバラエティに富んだいろいろな団体にアプローチしていくことができます。

永野委員長 3月15日に開催する区民会議フォーラムでも協力してくれそうな団体を呼んで、こういうプログラムがあるよと紹介できると良いと思います。単なる報告の場ではなく、プログラムづくりとしてのフォーラムにしたいです。

高木部会長 企画部会での討議事項になると思うのですが、実際に地域で動いている事例なども踏まえて話し合っていけると良いですね。フォーラムとしての注目度もあがると思います。

松井委員 野川カルタはとても良い事例です。ウォークなど、その後の取組にもつながっています。

高木部会長 カルタを作ってから2年あまりたっており、その間の動き方、使い方なども聞きたいです。

事務局 最初に作ったときも、公募で行ったそうです。また、今後3年計画くらいで、カルタの札にある地域の資源を全部ウォークで周ろうという計画のようです。区民会議第1期の委員である亀ヶ谷さんがかなり中心的に関わっていたようです。

松井委員 カルタは他の地域や区でも事例があるようですね。

コンサルタント 川崎区は地域の資源をマスのしたすごろくを作成しています。資源の内容としては、

史跡や場所が主となりますが、裏面には地図や解説をいれるなど工夫し、遊びながら地域の資源が学べるようになっています。地域の小学校などにも配布したようです。

高木部会長 集まった資源を楽しみ、活用していく段階では、そういった提案も出てくるのだらうと思います。PR の手法の一つですね。川崎区の場合は市民のガイド組織も関わっているようです。

時間も来ましたので、今日はこのあたりで良いでしょうか。

事務局 次回の1月の部会では、2月の全体会に投げかけるための募集チラシや、投げかけ対象の具体的な団体や方法を固められればと思います。

コンサルタント 呼びかけのスケジュール的なものもある程度出せると良いですね。

高木部会長 区民祭なども何か活かせると良いですね。

永野委員長 様々な区内のイベントに組み込んでもらう形の提案ができればと思います。

事務局 個人的な意見ですが、区政 30 周年に向けて、長い目でのビジョンや動きもつくっていけると良いと思います。この部会はその頃には無いと思いますが、ここでつくった動きが、すぐ終わるのでなく、そこまでつながっていくのが理想です。

松井委員 うまくいけば新しい観光資源などもここから出てくると思います。

2. その他

(1) 今後の進め方について

- ・ 次回の部会会合は、1月16日(金)18:00 から開催することとした。
- ・ 宮前ぼーたろうで行われている「花いっぱいプロジェクト」について、チラシやスタンプカード等が参考資料として配布されており、その説明が千葉委員からあった。

閉会